

令和4年度 体験活動普及啓発事業  
書道で感動！親子でわくわく体験

1 事業概要

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、書道体験の機会や多くの家族が交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発した。

2 事業の目的（ねらい）

紙漉き体験や書道体験を通して、達成感や創造力、自己肯定感の向上を図るとともに、日本の伝統文化や芸術の書道のすばらしさを体感させる。また、保護者に対し、体験活動等の重要性を啓発するとともに、活動の様子や成果を発信することを通して、広く普及・啓発を図る。

3 企画のポイント

国立大洲青少年交流の家には、活動プログラムに紙漉きの体験プログラムがある。それを活用して、漉いた紙に書をしたため、落款印を添える作品作りを企画した。また、愛媛県四国中央市では「書道パフォーマンス甲子園」が例年開催されており、県下の高等学校が数多く参加している。そこで、高校書道部による書道パフォーマンスをプログラムに入れるとともに、書道部員を講師に交流書道教室を企画した。



- 4 主催 国立大洲青少年交流の家
- 5 期 日 令和5年1月21日(土)
- 6 場 所 国立大洲青少年交流の家
- 7 対 象 小学1年生～中学3年生とその保護者
- 8 参加人数 53名(子供30名、保護者23名)
- 9 講 師 愛媛県立川之石高等学校書道部
- 10 日 程
- 9:30 開講式
  - 9:40 紙漉き体験(A班)、落款作り(B班)
  - 10:40 紙漉き体験(B班)、落款作り(A班)
  - 11:40 川之石高校書道部による書道パフォーマンス
  - 12:00 昼食、休憩
  - 13:00 交流書道教室一部(書き初め)
  - 14:40 交流書道教室一部(今年の漢字)
  - 15:30 閉講式



## 11 活動内容

新型コロナウイルス感染症対策として、紙漉き体験と落款作りを2班の交代制で行った。作った落款は、「今年の漢字」作品に押印した。漉いた紙は、後日参加者に郵送した。愛媛県立川之石高等学校書道部による書道パフォーマンスを参観した後、全員で記念撮影をした。交流書道教室では、書道部員を講師に一部で書き初め作品を、二部で今年の漢字作品を作った。

事業後、交流書道教室の作品展を令和5年2月1日から28日まで、国立大洲青少年交流の家の本館2階廊下にて開催した。



## 12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を示す。 \*満足：92%  
\*やや満足：8%

- 盛りだくさんで楽しかった。(2名)とても充実した一日だった。
- 子供と一緒に集中して取り組めることがなかなか無い中、機会をいただきとても良かった。
- お母さんと長い時間かかわることが少なかったので、とても楽しい時間になった。
- 無我夢中であつという間の一日を過ごすことができ、たいへん感謝している。楽しみにしているので、また企画していただきぜひ参加したい。(5名)
- 家ではなかなかできないことを体験させていただき、貴重でとても楽しく良い時間を過ごさせていただいた。久々に書道ができたことも、本当に良い経験になった。

## 13 事業の成果（参加者の様子を含む）

川之石高等学校は、南予で唯一「書道パフォーマンス甲子園」に参加している学校であり、南予で開催する事業の講師として適任だった。パフォーマンスや作品には迫力があり、参加者の感動を得ることができた。午後の交流書道教室の講師も依頼したが、お手本の作成を快く引き受けていただいた。小学生と交流を深めながら優しく指導する活動は、高校生にとっても学びの場となったに違いない。

紙漉き体験、落款作り、書道パフォーマンス、交流書道教室のプログラム構成は、参加者から「充実した一日で楽しかった」「また参加したい」と好評だった。初めての事業だったが、講師・対象者・プログラム内容の選定がうまくいき、本来のねらいを十分に達成することができた。

## 14 事業の課題

- 日帰り事業に多くのプログラムを入れ込んだためか、少しハードスケジュールになった。どのプログラムのどこを省いたり工夫したりするか、検討の余地がある。
- 紙漉き体験では、紙漉きの時間をもっと確保すべきだった。参加者の分はミキサー掛けまで予めしておき、指導者がそれまでの工程を実技で見せる方法もある。また、紙漉き体験の道具の数をもっと増やせば効率が良かった。
- 「今年の漢字」のための紙の準備に多くの時間と労力を費やした。市販の和紙か色紙の使用を検討したい。



(担当：企画指導専門職付係員 小池 源規)